

広大な敷地にゆったりスペース

東小移転改築の中間報告会で基本コンセプトを明らかに

新しい小学校は広大な敷地にゆたわりのスペース。4年後の完成、全面移転を目指す東川小学校の移転改築計画について、昨年12月基本計画づくりの公開中間報告会で新しい学校の具体的な基本コンセプトが示されました。基本計画案は、今年3月末をめぐりまとまる予定で、この日の町民意見などを参考に、さらに具体的な立体的基本計画案を作成。引き続き新年度に実施設計をする計画です。

公開の中間報告会は昨年12月19日、東川小学校等建設推進委員会（会長・飯森修東川小学校長）が開きました。役場大会議室には、同委員会委員、父母、東川小学校教職員も出席。新しい学校建設への考え方に耳を傾けました。

基本設計は北海道大学大学院工学研究院の小篠隆生准教授。昨年9月に建設推進委一行で行った小学校建設先進事例の考察、小、中学生アンケート調査結果、幼児センター・東川小学校PTA、同小教職員へのアンケート調査、同ワークショップを踏まえて、最有力案として検討中の基本計画案が提示されました。

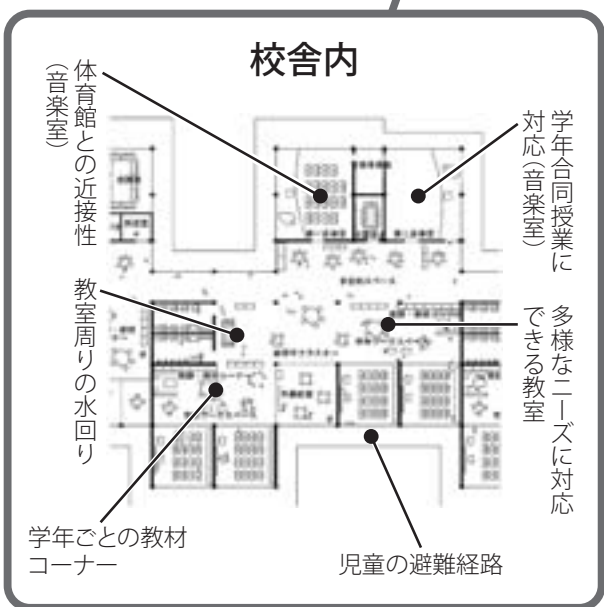
校舎は、現幼児センターの北側用地13・7畝（現有農地）を使って、平屋建て建築約7千800平方メートル（校舎約6千平方メートルランチルーム含む、体育館約千600平方メートル）を傾けました。

理室約200平方メートル、一体で隣接する（仮）町民交流センター（学童保育、食育活動用調理室含む約千500平方メートル）を提案しています。建物敷地全体の南側、幼児センター側に寄せて配置し、幼児センター

との間をプラタナス、ライラックなどの並木道をつくって敷地境界にしています。校舎を挟んで北側をグラウンド部として広く取り、300メートル陸上トラック、サッカーグラウンド（1面）、野球場（1面）、スキ

1学習ができる築山、田畑、果樹園、プレーガーデン、駐車場（3カ所延べ350台分）などを配っています。

「計画の中にないが、学校プールは大事」「木を使った場合、耐火は大丈夫か」「旭岳が見えやすいようにしてほしい」「他の学校で大便秘器を使った男子がはじめにいう例があったので、便器を男子、女子便器に分けないでほしい」「図書館は授業スペースも必要。書架を可動式にしてほしい」「図書は高学年用、低学年用など分けられないので、図書を分散せず、むしろ図書館としての機能充実が必要」などの質問がきました。



校にもそのようなスペースがほしい」などという意見が出ました。質問などに対し、小篠准教授は次のように回答しました。

プールは屋外型でビニール屋根を架けるものから屋内型まで多様。「使いたい」というニーズは必ず出てくるが、建設コストがどんどん高額になってしまうので入っていない。校舎デザインは基盤に整備された町の水田風景、整然としたあぜ道のイメージを建築に生かしたい。木材使用での防火性能を高めるため、一回り大きな材を使用する。ランチルーム、集会スペースのオ

ーブン化は「校舎内でインフルエンザまん延の恐れがある」と教職員から指摘されたが、食育教育を通じた異学年交流を進めるためにゆたわりの使えるスペースをとることが第一と考えた。

旭岳の眺望は、普通教室は南窓であるため無理がある。体育館の展望ギャラリー、特別教室から十分に見えるよう配慮した。

図書機能は地域開放型利用（学童保育側）に近い場所に配置し、地域活動を積極的にできる配置にした。読み聞かせのボランティア活動に配慮して打ち合わせスペースを設けた。

外構デザインとして四季を感じる緑、植栽を検討している。現有農地に水路があるので、土地が持っている記憶を生かしてその活用を図りたい。

遊具は木を使う遊具を取り入れたい。